

1 学校教育目標
<p>自由と平和を尊び創造的で自主精神に充ち、心身とも健康な自己教育力の高い国際社会人を育成する。</p> <p>①豊かな情操と人間尊重の態度の育成 ②基礎学力の充実と創造的思考力の育成 ③個性・能力の伸長と進路選択能力の育成 ④自由と責任を重んじる民主的態度の育成 ⑤公正な判断力と社会適応能力の育成 ⑥健康な心身の育成</p> <p>中・長期目標 …… 建学の精神を踏まえ、すべての生徒がその個性・能力を最大限に伸ばすことを願い、人格形成のために必要な基礎基本を重視し、ゆとりある、しかも、充実した学校生活を送らせ、教養と専門技術に習熟し、社会の急激な変化に対応できる創造性と思考力に富み、国際的で個性豊かな心身ともに健全な生徒を育成する。</p>

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
<p>① 基礎学力が不足している生徒が多く、全学年学科において基礎学力向上の取り組みに迫られている。</p> <p>② 新入生の懲戒処分者が多く、入学時より中学校と高等学校の違いを理解させ、きめ細かな指導をすることに迫られている。</p> <p>③ 生徒の進路実現に向け、生徒個々に対しきめ細やかな指導が必要である。</p> <p>④ 部活動参加の加入率を高めるとともに、特に女子及び文化部の加入率を高め活性化を図る必要がある。</p> <p>⑤ 全学科コースの特色ある取組および結果を見出し、受験生への広報が必要である。</p> <p>⑥ 学校運営目標を達成するために、事前の打ち合わせおよび調整、教職員の業務内容、質および量を精査する必要がある。</p>

3 本年度重点目標を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
<p>① PDCAサイクルにのっとり、各教科基礎学力の定着に努める。</p> <p>② 基本的な生活習慣の体得に努める。</p> <p>③ 生徒一人ひとりを大事にするキャリア教育に努める。</p> <p>④ 部活動の加入率を高め、学校行事や部活動等の活性化に努める。</p> <p>⑤ 中学校との交流を深化し、本校に求める情報等を入手し、学校運営等に反映させる。</p> <p>⑥ 分掌間の情報を共有し、交流を深化させ、QJTの推進に努める。</p>

4 自己評価					
評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
1 学年	①基本的な生活習慣の確立した高校生らしい生徒の育成 ② 3年後を見据えての指導	<ul style="list-style-type: none"> 1 学年全員を知る 生活マナーの向上 基礎学力の向上 保護者との連携と協力 	<p>①礼、挨拶がきちんとでき、常識をわきまえた生活をさせられたか。</p> <p>②3年後を考え、進路を明確にさせることができたか。</p>	達成できていない	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着がなされたとは言えず、時に常識とはとらえにくい言動をする生徒もいた。最初はできた挨拶もだんだんできず生徒が多くなった。 進路指導は各クラスで担任により三者面談等の実施など熱心に指導がなされ、進路実現に向けた対応がなされたが、まだ進路を明確にできていない生徒もいる。 △礼、挨拶などは日々の根気強い指導が必要であり、常識については教員側が差異のないとらえ方をすることが大事である。
2 学年	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻をさせない 端正な身なりをさせる 保護者との連絡を密にする 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導対象者を減少させることができたか。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導会議による処分者は、先生方の日々の取り組みにより、1年次より64%減であった。 △ただし、一部に欠席・遅刻が多いなど問題ある生徒もいるので、さらに教員間や家庭との連携を取り、指導していく必要があると思われる。
	進路意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> 進路を意識させる 各クラスに応じた基礎学力の充実を図る 検定試験の合格者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 欠点保有者を減少させ、検定試験等合格者を増加させることができたか。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> 欠点の基準が変更となり、各担任・担当教員は試行錯誤されたが、熱心な指導により、2学期に欠点科目を持つ生徒は、1学期より51%減であった。また、資格・検定において英検・漢検で準2級、電気工事士や危険物取扱者甲種の合格を始め、色々な分野で取得させることができた。 △ただし、欠点保有者や資格の無い生徒もいるので、引き続き学力に応じた対応が必要であるし、取得者においては、さらに上位・上級の資格・検定を目標において、挑戦させたい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
3学年	全員卒業	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> ○欠席、遅刻をさせない ○端正な身なりで生活させる ・保護者との連携を密にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期において、生活指導ポイント4以内、遅刻指導ポイント6以内に抑えさせることができたか。 	達成できていない	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の頃から比べれば、進路意識の高まりからか、欠席・遅刻も、生活指導ポイントも減ってはいるが、最高学年として見れば、まだまだ不十分であった。 △入学時から教育相談絡みで進級した生徒が、2年次の状況を何一つ改善できなかった。2年から3年への進級の際、3年次と同じ状況で上げてもらっているの、「どうせ卒業させてもらえる」と高を括っていたようである。教務内規にきちんと当てはめた方がよい生徒と、そうでない生徒の見極めが必要。 △教員によって温度差があるので、横一線の指導が必要である。
	希望する進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部、生徒部等との連携を密にし、進路実現を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一希望への合格 70%以上 ・卒業時点の行先決定 100% 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の生徒への指導に学年を挙げて早くから取り組んだ成果が表れ、先生方の指導に生徒たちが耳を傾け、身の丈に合った就職先を選んだ結果、多くの生徒たちが、第一希望に合格することができた。 ・進学は、多くの生徒が、指定校推薦を希望するので、合格率は高かった。経済的理由で進学を断念せざるを得ない生徒が若干名いたが、概達成できた。 △指定校推薦での受験生が、指定校だからと高を括って勉強せずに合格するケースが多くみられた。指定校推薦を受ける生徒の学習指導の見直しが必要と思われる。
特別進学・特進	模擬試験で結果を出す	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課外の実施(朝、夕) 2. 教務部と協力した朝学の実施 3. 模試の実施 	進研模試で学年の人数が 4:A3以上に50%以上占める 3:A3以上に10%以上占める 2:B3以上に100%占める 1:評価2以下	3	<ol style="list-style-type: none"> 1年1月進研模試英数国3教科で26%がA3であるため評価3である。 2年2月進研模試で英国歴史系3教科、英数理理系3教科で13%がA3であるため評価3である。 3年11月進研模試で英国歴史系3教科、英数理理系3教科で11%がA3であるため評価3である。 以上より全体評価は3となる。
一般進学・進学	各学年において充実した学校生活を送らせる 基礎学力の向上および定着 進学率の向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 学年:学習習慣の定着 2 学年:進路を明確にさせる 3 学年:進路決定及び卒業に全力を尽くさせる <ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職情報の提供とオープンキャンパスへの参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠点保有者を10%以内に抑えられたか。 ・希望する職に就くために重要な進路を選択できたか。 ・希望する進路に進むことができたか。 ・オープンキャンパスへ参加できたか。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ◎欠点保有者10%以内は、3学年は卒業がかかっており、達成できたが、1、2学年においては達成できなかった。 ○特定のクラスで10%をはるかに超える欠点保有者が出ている。クラス編生の問題もある。 ○学習習慣が身についた生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。また、努力不足や、学力の低さが原因。 △わかる授業を心がけてやる気を引き出す。試験前に意識付けの強化が必要。 ◎希望する進路に進むことができた。 ○早め早めの進路学習や就職指導が進路決定につながった。 ◎3 学年はオープンキャンパスに参加したが、1、2学年においては数名の参加となった。 ○3学年は、オープンキャンパスに参加することで入学試験の一部免除等あり、多くの生徒が自ら参加していた。1、2学年では、まだ進路が明確になっていない状況なので、参加率が低くなった。 △早めの進路啓発や進路学習が必要。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・新コース生徒に対する社会人基礎力を育む ・進路選択の意識付け 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間で基礎学力を着実に向上させる 2. 基本的生活習慣の確立 (1学年団としての指導) 3. 明るい挨拶と笑顔が日常的にできるようにする 4. 公務員希望者に対する指導 	具体的方策に対し、 ①基礎学力がきちんと上がっているか ②欠席遅刻等が増えているか。 ③明るい挨拶と笑顔が日常的にできているか ④将来の生き方に対する意識がしっかりしているか ⑤職業に対する理解が進んでいるか ⑥PDCAサイクルを通じ、見取りと点検をしているか。	3	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎学力を進路マップ結果からみると、国語は上がっているが、数学は下降、英語は変わらず前回と同じく低い。 ②遅刻欠席等は、特定の生徒に目立つが、全体的には大幅な増加はない。 ③挨拶は、よくできていると思う。 ④キャリアコースにおいて、1学期は外部より講師を招き、生き方についてのディスカッションを実施。また2学期は3年生に就職活動振り返りと将来の夢などを語ってもらい、先輩の姿を見て、意識付けができたのではと、感じている。 ⑤職業に関する理解は、1年時の段階での理解度は進んだと言える。 ⑥プライムレッスン時は、すべて事前学習と振り返りをさせるように実施した。 <p>以上により、全体評価は 3 である。</p>
アーティスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進路実現にむけて、自己教育力の育成 2. 地域貢献活動への参加 3. 進学率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸能系専攻者に対する取組 ラジオ番組の改変。映像作品の発表の場をつくる。各種のコンテストに参加する。 ・美術系専攻者に対する取組 美術館での鑑賞。作品の展覧をする。作品展の開催。 ・冬のツリーまつり、トクヤマ夏祭りなどの地域イベントへの参加。 ・高・専・大との連携 ・進学情報の提供とオープンキャンパスへの参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回以上の参加および出版ができたか。 ・番組審議会(ラジオ)の評価があがったか。 	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・映像については、メディアを活用して発表できる機会を得ることができた。 ・大学連携授業(羽衣国際大学)の実施はよかったが、今後継続してどのように課題設定し、実施していくかを考える必要あり。 ・美術系専攻者に対して、作品展など発表の場を広める必要あり。 ・学園祭でのコース発表において全員が何らかの形で参加し、作品を披露することができた。 ・地域イベントに参加し、地域に貢献することができた。 ・進学先の多様化と授業内容をどう進路に結びつけるかが課題。 ・スタッフ全員が身動きがとれない状況の中で、色んなことに取り組むのは、オーバーワーク状態である。 ・ラジオも継続したいが、できる形を考えながら実施。
商業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習意欲の喚起 2. 学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験の合格率をあげる。 ・検定試験の合格率を全国平均に近付ける。(3級8割、2級5割、1級2割) ・検定受験者に向け、課外を実施する。 ・検定取得の一覧を作成し、商業科教員で情報を共有する。 ・商業科目に関する朝学の導入。 ・地域イベントに参加させ、ビジネスマナーの活用の場を設ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 4: 全商検定3種目以上1級取得者を複数名出すことができた。地域イベントに商業科の生徒が全員関わることができた。 3: 全商検定3種目以上1級取得者を複数名出すことはできなかったが、受験率・合格率を前年よりあげることができた。地域イベントに商業科の一部の生徒が関わることができた。 2: 検定の受験者・合格者共に前年比で横ばいであった。地域イベントへの参加は出来たが、積極的に関わることができなかった。 1: 検定の受験者・合格者共に前年比で下り、地域イベントへの参加もできなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・三種目1級以上合格者は2名。 ・検定の合格率は、珠算・電卓検定では全国平均を保つことができたが、簿記検定や情報処理検定では到達できなかった。原因の多くは問題を読み取る読解力の低下によるものと考えられるため、次年度に向けて、新たな取り組みを考えたい。 ・情報処理検定、簿記検定、珠算・電卓実務検定、商業経済検定では課外を実施。ビジネス文書実務検定は、学習会として検定に向けた練習ができるよう生徒たちにアナウンスした。 ・12月に販売実習を実施。その他こどもっちゃん商店街に出店し、生徒の実習場面を増やすことができた。 ・商業科目に関する朝学の実施は導入することができなかった。基礎学力を身につけさせる、落ち着いて話を聞かせることに留まった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
電気	資格取得者の増加	計算技術、情報技術などの全員受験のものに加え、危険物取扱者、電気工事士、玉掛け、小型移動式クレーン、フォークリフト、ガス溶接等の資格試験合格者を増やす。	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。	2	各種技能講習の受講者数が延べ73名と、就職希望者の大半が受講している。しかし、危険物取扱者は甲種取得者がいる一方で、合格者が年間4名と少ない。また、電気工事士も上期合格者なし(筆記2名合格)、下期1名と、不本意な結果に終わった。また、計算技術検定2級合格者が年間4名に対し、3級合格者が10名と、非常に少ない。パソコン利用技術検定3名、情報技術検定4名と、こちらの取り組みに対して合格者が非常に少なく、指導内容の見直しや、受験する検定の精査を考える必要がある。
総務部	[庶務係] ・広報文書 広報文書において円滑な運営をする。 ・会議記録 会議記録を確実にする。 ・奨学生 奨学生募集における業務を円滑に行う。	・広報文書 ①各係との連絡をとり、文書等の作成をする。 ②文書等の整理・保管を確実にする。 ・会議記録 ①誰が見ても後でわかるように記録をとる。 ②配付資料の保管を確実にする。 ・奨学生 ①事務的処理を確実にする。	①学校要覧等の作成がきちんできたか。 ②次年度への連絡がうまくとれるような整理・保管ができたか。 ①漏れなく記録をとることができたか。 ②誰が見てもいいように資料整理・保管ができたか。 ①滞りなく事務処理ができたか。	概ね達成	・広報文書 学校要覧の作成は、吉田先生をはじめとして緒方先生がきちんと作成されたため◎ 文書等の保管においては徹底できていない部分があるので○ ・会議記録 輪番制で回し、各会議において漏れなく記録を取ることが出来たが、配布資料の保管が徹底していなかったため○ ・奨学生 事務手続きが滞りなく出来たため◎
	[学校行事企画運営係] 学校行事の企画運営を確実にする	・学校行事に係る日程等各部や各係との事前に打ち合わせを実施し、円滑に運営できることを目指す。	4:学校行事が企画の段階から滞りなく実施された。 3:事前打合せなしで企画し実施した。 2:企画通りに進行できなかった。 1:実施中に変更が多く、企画の練り直しが必要である。	4	学校行事において、総務部が主体で実施したものは事前に企画提出をし、校正等おこない、円滑に運営できたと思われるが、生徒会主体の行事については、事前の打ち合わせをせずに、把握しないまま実施してしまったので、学校行事企画運営係として達成状況は不十分であるが、行事としては例年通り運営できたので、達成度は4と思われる。
	[渉外係] 関係各分掌との連絡を密にし、円滑に行う	①集団宿泊・修学旅行に関わる関係者との連絡・調整。 ②共済・生協等職員の福利厚生に関わる広報業務。 ③PTA役員選出に関わる業務 ④校内外の関係団体との調整	①各学年部と連絡を密にし、文書等の作成が適時作成されたか ②パンフレットの配布や整理されていたか ③PTA担当者との連絡を密にし、各担任へ問題なく伝達できたか ④事前の打合せ等連絡調整がうまくできたか	5	文書等の作成においては、作成の段階で確認・校正をおこない、適時配布できた。パンフレット等の配布、整理も確実にすることができた。集団宿泊の来年度実施予定日について校外施設団体との連絡調整も確実にすることができた。修学旅行については、該当学年部に一任し、関係する文書の作成・印刷に係る方で確実に実施できたので、係として全体の達成状況は十分だったので、達成度は5である。
	[情報管理係] ①情報管理の徹底 ②適切な情報処理 ③校内整備の管理	・教務関係の情報処理は期限を守る。 ・学校HPの定期的更新を図るため、情報提供の方法をわかりやすくする。 ・学校代表メール(info)の転送処理を毎日行う。 ・校内設置の機器およびネットワークの管理を徹底する。	4:校内の情報にかかわる業務が滞りなく行われた。 3:情報処理に時間がかかったが、他の業務には支障が出なかった。 2:業務によっては処理・更新が遅れた。 1:業務の遅れから適切な時期に情報処理・公開が行われなかった。	3	・教務関係の情報処理は期限内に行うことができた。 ・学校HPの部活動のページは情報が上がってきたらすぐに更新することができたが、他のページ(特に学科紹介ページ)の更新をすることができず、担当者を追加することで、webページの更新をすることができた。 ・学校メールは担当者2人で転送処理を滞りなく行うことができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
教務部	[教育研修係] 教員研修の実施	・月1回の公開授業の実施 ・キャリア教育推進のための研修の定期的な実施	4:十分に達成できた 3:おおむね達成できた 2:取り組んだが十分に達成できなかった 1:計画のみに終わった	2	・公開授業については、業務が多忙の時期には、なかなか実施できず、月1回という計画に無理があったと考えられる。 ・キャリア教育推進のための研修は1回実施したにとどまり、キャリア教育推進委員会が編成されたことで係からの研修は以後実施せず。
	[時間割係] 迅速・正確な対応	・時間割編成は各条件を全て満たし均等に入れる。 ・日常の時間変更を機能させる ・特編日程は計画的に対応 ・繁忙時期は全員で対応	4:十分に達成できた 3:おおむね達成できた 2:取り組んだが十分に達成できなかった 1:計画のみに終わった	3	・昨年度と係内の分担の変更があり、仕事に慣れるまでに時間を要したが、後半からはおおむね機能したと思う。
	[教具・教科書係] ・円滑な学習活動のための環境整備 ・教科書・教材の受発注を確実に進行	・年間計画を作成し、時期に応じた対応を適宜行う ・教具等の不足を常に点検し、迅速な対応に徹する ・公簿教具の改善案や刷新案について考慮する。 ・校内および、書店との連絡調整を円滑かつ密に行う	4:公簿教具・教科書の不備・不足の指摘0件 3:公簿教具・教科書の不備・不足の指摘5件以内 2:公簿教具・教科書の不備・不足の指摘10件以内 1:公簿教具・教科書の不備・不足の指摘10件以上	3.5	・教具係に関しては、新校舎完成による教具の保管場所の改善を行い、年間を通して円滑な学習活動の環境整備はできたので、4という評価である。 ・教科書の受発注においては、必修か選択かの区別をもっと主任の先生方に認識して頂く必要があったが、その説明が欠けていたので、3という評価である。
	[道徳教育係] ①規範意識の育成 ②よりよい生き方の追求 ③他愛と思いやりの心の育成	①各教科・部との連携によるLHRでの道徳人権教育の実施 ②道徳・人権に関する研修会等への積極的参加 ③他愛や愛校心を抱かせるような教材の研究及び提供	①各教科・部との協力が得られたか。 ②必ず誰かが研修会に参加できたか。 ③自分の学校に誇りを持ち、楽しく登校することができたか。	3	年に2度の道徳教育を実施したが、係の中だけでの教材作りになってしまい、各教科・部との連携をとることができなかった。また、研修会への積極的参加の機会もなかったため、3という評価である。 ただ、道徳教育実施後の生徒一人ひとりの書き物については、誠実に書いていたことがありがたかった。
	[国際交流係] 国際交流の推進	・キャセドラル学園との短期ホームステイ研修の受け入れ・送り出し実施 ・キャセドラル学園との長期交換留学(1年間)についての計画を具体化する。	4:大変活発に交流することができた 3:活発に交流できた 2:交流の機会が少なかった 1:交流することができなかった	4	キャセドラル学園との短期ホームステイ研修の受け入れと送り出しの両方を実施できた。特に受け入れでは、23名の生徒と3名の教員という大人数を受け入れ、本校の多くの生徒や教員が異文化交流をすることができた。また、今後の長期留学についても話し合いを進めることができたので、当初の目標は十分に達成できたと言える。
	[視聴覚室] ・学校行事の放送準備・運営の徹底 ・学校行事の映像撮影・記録・管理。	・事前準備において、すべての機材の動作を確認 ・リハーサルなどを十分に行い、当日円滑な運営ができるようにする。	・事前準備が確実にできたか。 ・当日の運営が計画どおり実施できたか。	達成	・学校行事における放送準備・運営や映像撮影・記録については、万全に行われた。 ・時に、行事企画担当から、本番直前に知られることもあるので、連絡連携を密にする必要がある。
	[情報処理室] 施設・設備の点検	・機器の点検を週1回実施し、記録簿をつける。 ・機器等の故意による破損や汚損等を防ぐための啓蒙活動を行う(授業・部活動など)	4:点検が確実に行われ、機器の故意による破損汚損を防ぐことができた。 3:点検は行われたが、機器の故意による破損汚損を防ぐことができなかった。 2:点検もあまり行われず、機器の破損汚損が絶えなかった。 1:情報処理室の使用を停止した。	4	・機器の更新に伴い、破損等はなく、情報処理部等の生徒の協力もあり、機器の更新もスムーズに行えた。 ・教室の清掃・管理も部活動を中心に行うことができた。
	[図書室] 図書室の活性化	1. 図書委員の積極的な活動 ・定期的に委員会を行う 2. 図書だよりを出す(月に1回) 3. 来室者を増やす ・生徒が入りやすい図書室づくりを行う ・自習室としても活用できるようにする	1. 月に2回委員会を行っているか 2. 図書だよりを月に1回出しているか 3. 図書委員を通じて、クラスの中で広報活動ができているか	5	委員が率先して活動し、掃除などもしている。 図書だよりの発行もできており、生徒たちも自分のクラスの生徒の名が出ていると、必死に読み、少しでも図書室へ行ってみようかという声がかかってくる。 図書室の貸し出し数と来室者数が明らかに増加しているため、手前味噌ではあるが、5段階のうち最高点の5とする。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
生徒部	[生徒指導係] 1. 問題行動の発生防止 (生徒指導会議対象者を昨年度比20%削減) 2. 服装頭髪指導の徹底	1. 情報交換と情報収集の実施 校内外の巡視 2. 服装頭髪検査の実施 校内外の巡視	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:達成できなかった。	3	重点目標について 1. については、生徒指導会議対象者を昨年度46名に対し、今年度3月9日現在で35名であるため、20%削減という目標値の数値上は達成できた。しかし、喫煙や窃盗は昨年度並みの処分者が出ていることを考察すると、特に校外での生活について、指導を強化しなければならない。外部からの通報・苦情の意味を生徒により一層伝える必要がある。 2. については、頭髪検査後の頭髪加工が見受けられるので、クラス担任や教科担当者と連携を図り、継続的な指導を今後も行う必要がある。 具体的な方策について 1. については、ほぼ毎週の係会議を実施し情報・意見交換ができた。校内外の巡視もほぼ計画通りに実施できた。 2. については、行事予定に合わせ、学年主任とも協議のうえ、年間を通じて計画通りに実施できた。
	[交通指導係] ①自転車事故の減少 ②交通規則の遵守	①HRでの交通安全の呼びかけ 交通安全指導・教室の実施 自転車の整備状況の点検 ②2人乗り・並列運転の防止を呼びかけ	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:達成できなかった。	3	・①②とも、計画された取り組みは実行できた。 ・年度途中で警察関係者による交通安全講話についても、滞りなく実施できた。 ・係が2名は少なすぎるので、増員を検討していただきたい。
	[教育相談係] 中途退学者の減少	・出席状況の把握 ・生徒個人カルテの作成 ・スクールカウンセラー(月1回)による対応 ・週一回、各学年主任とのミーティング(月曜日) ・週一回、係内のミーティング(木曜日4限) ・別室登校生徒への対応	・不登校による退学者を、教育相談にかかわった生徒の10%以内に抑えると同時に、特別入試生徒の1/3が卒業及び進級できたか。	概ね達成	・毎朝の出席状況の把握、生徒との面談をこまめに行うことで不登校生徒の対応に効果を上げているが、さらに授業欠課時数と学習成績の把握も必要だと感じた。(個人カルテとして) ・スクールカウンセラーとの連携および別室登校生徒の対応もできた。教員をサポートする上で、充実してきた。問題を心にためている教員が相談できるよう、敷居が低くなるとよい。(教員研修など) ・学年主任とのミーティングは効果あり。 ・校舎建て替え中のため、別室登校生徒に影響が出た時期あり。 ・特別入試生徒は1/2以上の進級・卒業。 ・教育相談が面談・指導を行った生徒72名中で、5人が退学。
	[人権教育係] いじめの防止	・桜ヶ丘高校いじめ防止基本方針の改正 ・いじめ対策委員会の機能的な運営 ・いじめアンケートの実施と早期の対応	4:いじめ事案が5件以下 3:いじめ事案10件以下 2:いじめ事案15件未満 1:いじめ事案15件以上	1	本年度のいじめ事案は17件であるために達成度は1である。昨年度の12件と比較しても増加をしている。生活アンケートによる面談や生徒、教員からの直接の相談などに追われて、いじめの予防策等まで手が付けられなかったのが原因だと思われる。
	[生徒会係] 学校環境の整備	・生徒会執行部の積極的な活動を指導 ・生徒会各委員会活動の活性化 ・各学級での生徒会各委員会の積極的活動を啓発	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:達成できなかった。	3	生徒会執行部は、積極的に活動し、学校行事や係活動を熱心に行ってきたが、各学級での委員活動については、徹底していない部分があった。この部分は、大変難しく、今後の課題となるが、執行部の生徒がリーダーシップをさらに発揮し、各クラスの委員に分かりやすく活動内容やその目標を伝え、無理のない活動計画を立てるようにして進めていくことが必要である。
	[体育・文化部係] 部活動活性化に向け体育部・文化部・同好会の整備	・体育部・文化部・同好会との綿密な連絡調整	・各部活動の現状を把握し、活性化につながる活動をすすめられたか。	概ね達成	・部活動における連絡などは滞りなく出来た。 △活性化には課題は残り、各部活動で工夫がされていることなどを、他の部活動に還元する必要がある

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
進路部	[進学指導係] 1. 各学科コースに応じた実力養成 2. 進学情報の提供	特別進学・特進 1. 課外の実施(朝、夕) 2. 教務部と協力した朝学の実施 3. 模試の実施	進研模試で学年の人数が 4:A3以上に50%以上占める 3:A3以上に10%以上占める 2:B3以上に100%占める 1:評価2以下	3	1年1月進研模試英数国3教科で26%がA3であるため評価3である。 2年2月進研模試で英国歴史系3教科、英数理科系3教科で13%がA3であるため評価3である。 3年11月進研模試で英国歴史系3教科、英数理科系3教科で11%がA3であるため評価3である。 以上より全体評価は3となる。
		一般進学・進学 1. 宿題、小テストを実施して学習習慣を身につける 2. 課外の実施(朝、夕) 3. 教務部と協力した朝学の実施 4. 模試の実施	毎日の宿題提出率が 4:80%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:評価2以下	3	学習習慣定着のため毎日の課題を課したが提出率は60%強であったため。毎日必ず提出する生徒、途中から全く提出しなくなった生徒と二極化見られた。「わかる」授業の実施やこまめな声掛けなどで提出率を上げていきたい。
	[就職指導係] 1. 就職試験対策の強化 2. 推薦依頼受理数の増加 3. 職業理解の推進	1. 一次応募者数を就職希望者の9割受験 2. 一次応募合格率65%以上 3. 企業からの推薦依頼数100名以上 4. 未内定生徒2%以内 5. 家居その他生徒3%以内 6. 就職希望者に職場見学への参加・・・推薦希望者の7割	各具体的方策の 4:目標数値を超える 3:目標値の90%以上 2:目標値の70% 1:目標値の70%未満	3	①今回、一次合格率が87% 求人数は県内が157人、県外76人で指定求人は138名と大幅に増えた。 (求人難の影響が大きい) ②6月から就職希望者は8月いっぱいまで学年が主体となった指導体制ができていたのが結果につながったと言える。その中で企業も求める人材との生徒のマッチングがうまくできたと思う。 ③来年度以降の希望として、まず分掌の構成を各学年から2名ずつとし、進路指導を定着させるためにも普通教科の中から、 <u>30代でしっかりと進路指導を学んでもらう教員(今後の本校の進路指導を変革して行ける人材・進路指導のスペシャリスト)の育成が急務と考える。</u>
[キャリア教育係] A. 進路意識を早い段階から持たせるため 1. 各学科コースに適した進路ガイダンスの実施 2. 「総合的な学習の時間」を活用したキャリア教育の展開 B. 社会人基礎力を高めるため「教科」におけるキャリア教育の導入 1. 科目「職業理解」「キャリアデザイン」のシラバス作成 2. PBL、AL授業導入のための研究	A. を実施するために 1. 各学年の進路発達に応じた進路ガイダンス等の計画・実施 2. 三者面談、進路保護者説明会各種適性検査の計画実施 3. 進路希望調査、進路意識調査アンケートに基づく指導内容の検討 B. を実施するために 1. シラバス研究と研修の実施 2. 外部研修会等への参加	各具体的方策の実施に関して PDCAにおける 4:見取りと点検をスピード感を持って評価、改善が十分になされた(十分なPDCA) 3:見取りと点検を実施し、改善につなげた(PDCA) 2:見取りはしたが、点検が不十分であった(PDCまで) 1:計画倒れとなったままであった	3	①各学科コースに適した進路ガイダンスは、本校のような進路多様校にとっては、必要だと考える。 キャリア教育の狙いが社会へのスムーズなトランジションにあり、本来なら日々の教育活動の中で実践されていくべきである。 ②「総合的な学習の時間」でのマナトレ実施は、効果があるかどうか分からない。それに代わるもので基礎学力の向上を望めるものや方法があれば切り替える方がよい。 ③「総合的な学習の時間」については、各学科、コースに合わせた内容とし、教務を中心に内容の検討をお願いしたい。 ④新3年の「キャリアプランニング」と新2年「職業理解」のシラバスは作成した。誰が担当してもできる内容であると考ええる。 ⑤PBL、AL型授業については、AL担当(研究者、発表者を決め、実施してみると良い。 ⑥今後の進路指導、キャリア教育を中心に学校を牽引する若いリーダーの育成が急務であると考ええる。その点も考慮し、新しい分掌を考えて欲しい。	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の検証◎・分析○・改善策△
保健環境部	[保健計画係] 健康・安全教育の徹底	①定期健康診断の計画・実施、事後措置 ②LHRの計画・実施	4:すべて計画通りにできた。 3:おおむね計画通りにできた。 2:ほとんど計画通りにできなかった。 1:計画のみに終わった。	4	定期健康診断は予定通り実施できた。LHRは、12月分は教務の都合で実施できなかったが、1回は予定通り実施できた。
	[環境係] 環境美化の徹底	①日常点検の強化 ②道具の確保・整備 ③事務及び各美化担当者との連携 ④ごみの分別知識の普及 ⑤リサイクル活動の推進	・日常点検での不備指摘件数の減少 ・ゴミ分別に関する資料提供が十分できたか。 ・リサイクル活動を通しての利益を見える形で還元できたか。	概ね達成	◎日常点検での不備を職員室にて「見える化」したが、以前よりは美化に関して意識が高まった。今後は自分の割り当てに関係なく、その場で対処できる機動性が求められる。 ◎ごみの持ち帰りの徹底が必要。ごみの分別については、今後も指導する教員の理解を高めていく必要あり。 ◎リサイクル活動はかなり意識が高まった。さらに推進し、形になるもので達成感を高めたい。(乾湿両用掃除機購入)
	[安全防災対策係] 防災意識の啓発	・避難訓練の実施(毎学期) ・防災ガイドラインの策定 ・LHRで安全指導を実施	4:すべて実施および策定 3:おおむね実施できた 2:ほとんど実施できなかった 1:計画のみに終わった	4	◎避難訓練および安全指導は実施できた。しかし、避難時間については未だ短縮の余地があるので、生徒を迅速かつ安全に避難させるように、内容と指導を充実させていきたい。 ◎防災ガイドラインは1学期に作成・提出し審議待ちであるが、これについても随時更新し、より実用的なものに磨いていきたい。
	[保健室] 健康教育の徹底	①健康に関する情報の発信 ②要管理生徒の状態を的確に把握する ③定期健康診断で発見された疾病異常の早期受診指示及び継続管理の徹底を図る	4:すべて計画通りにできた。 3:おおむね計画通りにできた。 2:ほとんど計画通りにできなかった。 1:計画のみに終わった。	3	健康に関する情報の発信、要管理者名簿の作成等はできています。 定期健康診断の事後措置として、疾病異常の受診指示はしたが、受診報告書の提出が少なかつたため、提出率を上げることが次年度の課題である。
生徒募集部	総受験者数 1450名 入学手続き者数240名	① 中学校訪問…重点校(市内マンモス校、下松方面、防府方面)の強化 ② 中学生保護者が来校するイベントの企画 入試相談会 オープンスクール 公開授業 ③ 教職員の生徒募集に対する気運を高める。 ④ 情報発信を積極的に行う ・HPによる情報発信	4:目標値を大幅に上回った 3:目標値を達成した 2:目標値を下回った 1:目標値を大幅に下回った	4	・総受験者数1491名 ・入学手続きはまだ未確定 ・各イベントも昨年並みを記録し、成功した。 ◎各イベントの告知を早め早めに各中学校にお知らせできたのがよかった。 △入試が全県一区となり、防府地区を含めたさらなる募集活動が必要 △生徒募集が係任せの状況がさらにすすんでいる。 △次年度の本校のセールスポイントが確定せず、バタバタの告知になってしまった。 △HPによる発信は、タイムリーでなく、各分掌からの情報の集約やHP担当との連携を改善する必要
事務	学校耐震化計画の確実な実施。	・安全に配慮した工事及び工程管理の実施。 ・関係各所との連携を深め、迅速かつ適切に事務処理を行う。	・工事業者の安全管理態勢を常に検証できていたか。 ・工程管理を確実にしていたか。 ・補助金対象事業として採択されたか。	達成	・安全管理については、週1回の工程会議分科会において検証した。前年に引き続き労働災害は発生していない。 ・工程管理を確実にすることにより、次年度に延伸することなく、完工することができた。 ・改築、補強ともに補助対象事業として採択された。

概評

昨年度は本校にとっては歴史的な学校教育環境の整備・補強が完成し、教職員・生徒にとっては新しい校史作りに意欲を燃やす刺激剤になったと思う。全校生徒の雰囲気からしても新校史作りの実感がわいてきたのではなからうか。

幸先良く、学校側より今春超難関の国立大学に2名合格した旨の報告があった。進学指導は軌道に乗りつつあり、高い成果も現実化している。しかし、特進コース以外では学習指導面で基礎学力不足が指摘されているし、能力格差の縮小も課題になっている。生徒指導面では依然として校則順守精神に欠ける生徒の存在が顕現化している。尚一層のきめ細かい指導と対策が必要である。

次に、複数年に亘る校舎整備の工期間に、教職員・生徒に係わる労災事故が皆無であったことを聞き、安全教育に学校・施工業者共々連携を密にし、無事故の徹底を目指したことは高く評価できる

学校行事を通して見た評価―特色ある学校作りの一環

①文化祭での研究発表(映像記録)

戦後70年を経過し、戦後生まれの人口比率が70パーセントを超えている現今、戦争体験者も年ごとに減少しつつある。周南市には、今次大戦下(徳山市)では海軍の国内最大規模の燃料基地であった第三徳山海軍燃料廠があり、その施設を防備するために昭和13年「徳山要港」に指定され、徳山港を中心に一大海軍の要塞化とされた。一方大戦末期には徳山湾上に浮かぶ大津島に、国内最大の人間魚雷『回天』訓練及び出撃基地が開設された。

本校生徒(アーティストコース3年)は指導教諭の助言を受け綿密な計画を立案し、太平洋戦争の風化防止のために大手新聞社・NHK・大津島回天記念館・平生回天記念館〔阿多田交流館〕とタイアップして、なぜこうした特攻作戦が強行され、若き有能な青年が特攻隊員に自ら志願して命を犠牲にしたかについて、聞き取り調査・現地調査・資料紹介等を織り混ぜ、ドキュメンタリーに編集した映像記録を発表し、全生徒に観賞させマスコミにも取り上げられ社会的共感を得た。これらはその学校を超越した社会教育の一環として見ることも出来る。周南市には他市町村に無い生きた戦争遺跡等の教材が存在しており、戦争賛美ではなく真摯に取り組んでそれらを教材化して公開し評価を待つのも、特色ある学校教育の支柱の構築に繋がることになるのではないかと思った。

②文化講演会(感想文)―全生徒の生々しい心情に触れた

年一回恒例の文化講演会も30回を迎えようとしている。多彩な経歴を持つ講師陣招聘の歴史がある。私も昨年講師として招聘され、全校生徒・教職員の前で90分に及ぶ講演の機会に浴した。

私は『回天』基地大津島の出身で、戦中の訓練や出撃状況を国民学校低学年時に日常的に目の当たりにして育った。そういう環境下での体験を郷土史研究会の会誌に投稿したり、平和教育の一環として機会あるごとに講演をして風化の防止に努めてきた。

本校の講演会で、「人間魚雷『回天』特攻作戦から何を学ぶか」という演題で、高校生と年齢の近い特攻隊員、彼らは人生を謳歌出来る青年期に、全く選択肢のない生き方を強いられ、自ら志願して厳しい訓練に耐え「必死零生」の特攻兵器『回天』もろとも敵艦に体当たりし深く国難に殉じた。

特攻出撃が決まると、隊員たちは家族・親戚・恩師・友人・知人等へ遺書を認めた。原本も存在しているが、これらは関係者によって編集され多くの書籍として世に出ている。それらの中から家族愛、特に母親への思いが込められている約10編を選び、1編ごと朗読してその中に込められている彼らの心情を、私なりに出来るだけソフトに生徒に伝えた。いつの時代でも、また、子はいくつになっても特に母親への思いは特別なものがあることを痛切に感じ取ってくれ、殆どの生徒たちは感想文の中で切々と吐露し、特攻隊員の心情に共感してくれた内容であった。

「遺書」については敢えて印刷資料とし事前に生徒には渡さないで、朗読という手法を採って、よく聞いていないと感想文として何も書けないことを想定した講演であったが、過日学校から学年・科・コース・組別の男女による感想文の代表作が届き、目を通してそれこそ感涙に咽んだ。講演終了後すぐに感想文の作成に取り掛かれるよう配慮したのが功を奏したかも知れないが、原稿用紙2～3枚に特攻隊員の遺書にも引けを取らぬ文章の中に、素直で極めて純粋な生徒の心情表現に接することができ嬉しかった。

こうしたことが、一時的にせよ生徒の心に焼きつき、父母や兄弟姉妹への家族愛・家族を守るためには自分たちが祖国を守らねばならないという祖国愛・郷土愛などに対する思いに浸ることにより、現代の社会現象である青少年の殺人・自殺・非行・不登校・引きこもり等の防止に昇華させる動機に繋がればよいとつくづく思った。

学校行事は、とかく単なる恒例の年間行事の一環でマンネリ化傾向に陥りやすい。斬新なアイデアの導入による試行錯誤の繰り返しが見られる。学習指導・進路指導・生徒指導に準ずる格付けをして、特色ある学校作りの機会と捉えるべきではなからうか。

今回は、私自らも参加した文化祭と文化講演会の2事例をあげ評価してみた。

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>① 学力の向上については学年、教務、進路指導と各分掌において様々な取り組みがされているが、未だ顕著な結果にはつながっていない。ただ、確実によい雰囲気や気流れはできつつあり今後が期待できる。</p> <p>② 生徒指導においては関係者が中心となり、各学年団で組織的な対応の結果概ね達成はできたが、問題行動とまではならないにしても、通常生活における基本的な生活習慣の無い生徒が今までになくおり、対応に苦慮した場面が多く見られた。家庭での教育力の低下にくわえ、学校に対するクレームが増えそれに対する教員の対応力が付いて行っていない状況があった。</p> <p>③ 中途退学者に関しては、教育相談・生徒指導等との連携により一定の成果をあげた。特に特別入試での入学生の半分以上が進級・卒業できたことは評価できる。</p> <p>④ 特進コースの入学者が過去最高の 55 名を見た。これは本校に対する期待の表れと感じこの期待にこたえるべく進まなければならない。</p> <p>⑤ 部活動における加入率を 60 パーセント台にはのせ学校の活性化をさらに活性化しなければならない。教職員の意識の高まりを感じる。</p>
--

<p>7 次年度への改善策</p> <p>① 学力の向上なくして進路の担保はなく学校の信頼の勝ちも勝たない。そのためには平素の授業を大切にし、教職員の授業力の向上に努めなければならない。</p> <p>② 研修等への積極的な参加により教職員の様々な分野における指導力の向上に努めなければならない。</p> <p>③ 生徒にあった進路指導に努め、卒業後の安定的学習、就業を確保してやらねばならない。</p> <p>④ 部活動の加入率を高め各クラブの活動を活性化させ、多くの生徒に対外的活動を体験させ精神的発達の一助とする。</p> <p>⑤ 中学校との交流を深めると共に、校内の学習状態、生活状態等も見直し退学者の減少に努める。この事の実現こそが今後の生徒募集の成功につながる。</p>
--